

5 早期発見に大切な定期検診

肺がんは自覚症状が出てからではすでに進行がんとなっていて治療がしにくいので、症状がないうちに発見することが重要です。40歳以上の人と喫煙者は、自覚症状がなくても年に一度、検診を受ける習慣をつけましょう。市区町村や職場が実施している集団検診や人間ドックなどをぜひ利用してください。

また、近所に信頼できるかかりつけ医を持つことをお勧めします。検診を受ける医療機関がわからなければ紹介してくれますし、検診結果を受け取ったら、データの示す意味などを説明してもらい、生活上のアドバイスを受けるとういでしょう。もし検診後に再検査や受診の指示が出た場合など、意見を聞くことができますし、医療機関への紹介状を書いてもらうこともできます。

肺がん検診は40歳以上を対象として、X線写真を用い、2人以上の専門医により読影されます。必要に応じて過去のX線写真と比較して読影することもあります。さらに検診時の質問の結果、50歳以上で、喫煙指数（1日の喫煙本数×喫煙年数）が600以上の人は喀痰採取容器を配り、3日間連続して喀痰細胞診を行います。

《 肺がん検診の流れ 》

